

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第4回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	令和4年3月17日(木) (午前 午後 1時00分 開会 (午前 午後 2時30分 閉会
開催場所	茨木市男女共生センター ローズWAM501
議長	野口 義文氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)
出席者	伊津田 崇氏 (中小企業診断士)、大岩 賢悟氏 (公募市民)、笹井 直木氏 (茨木商工会議所)、高石 秀之氏 (工業事業者)、谷 正之氏 (バイオインキュベーション施設運営事業者)、辻田 素子氏 (龍谷大学 経済学部)、野口 義文氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)、前川 哲司氏 (北おおさか信用金庫)、前田 幸子氏 (商業事業者)、森本 康嗣氏 (公募市民) (10人)
欠席者	西村 庄司氏 (農業事業者)
事務局職員	河原商工労政課長、富崎商工労政課参事、武部商工労政課長代理、堀企業支援係長、上山商工労政課職員 (5人)
議題(案件)	(1) 趣旨説明 (2) 会議の公開について (3) 茨木市産業振興アクションプラン改定に係る素案について (4) 茨木市企業立地促進奨励金制度について (5) その他
配付資料	・資料1 パブリックコメントについて ・資料2 第3期茨木市産業振興アクションプラン(案) ・資料3 令和3年度の事業について ・資料4 今後の取組について

議事の経過

1 開会

事務局：開会のあいさつ

委員出席状況（11人中10人出席により会議成立）

2 会議の公開について

事務局：市の指針に則り、会議は原則公開とする。

会議録は要約したものを公開する。発言者は個人名を記載する。

なお、今回の傍聴希望者はなし。

3 第3期茨木市産業振興アクションプランの策定について

事務局：（資料1、2をもとに説明）

<質疑・意見等>

辻田委員：パブリックコメントの意見からも感じるのですが、25ページの「成長産業の促進」という項目について、もう少し具体的な説明をしてほしいと思いました。他の項目の説明からは具体的な取組のイメージがわかりますが、「成長産業の促進」の説明には抽象的な内容しか書かれておらず、具体的にどのようなことに取り組むのか、イメージできませんでした。パブリックコメントを出された方も、そのように感じて意見されているのではないのでしょうか。現状の課題を分析したうえで、どのような施策に取り組むのかを示すのがいいと思います。

谷委員：辻田委員の指摘にもありましたが、7ページの彩都地域の説明も一般的なことしか書かれていないため、具体的な説明が必要ではないのでしょうか。例えば株式上場を行った企業数や、ベンチャー企業数、大阪府が把握している従業員数といった数字を記載することによって、彩都地区がバイオベンチャーの集積地としてかなり大きいことが伝わるのではないのでしょうか。プランを実際に読む人に対して、彩都をもっとアピールするべきだと思います。

森本委員：19ページに目標を書かれたところが、前回からアップデートされた部分かと思われませんが、目標としてももう少し踏み込んで、数値設定をしても良かったのではないかと感じました。どれくらいの取組をすれば、どのような効果が出るのかといったことを、もう少し踏み込んで数値まで設定することによって、数値を達成するためにはどうすれば良いのかといった部分まで紐づけて議論が出来れば良かったのではないのでしょうか。

また施策の「地域産業を基盤強化し雇用を充実する」という部分ですが、それぞれの言葉の階層が足りていないとも感じました。第5次総合計画における「施策」をプランの中では「めざすべき姿」と置いている点や、「基盤」という言葉について、基盤を強化するためにはどうすればよいのか、雇用の充実はどのような指標で測るのかといった所まで分かりやすく設定できればもっと良かったのではないのでしょうか。

大岩委員：イラストだけでなく、実施している事業の内容がわかる写真等を載せてもいいのではないかと感じました。

高石委員：今回の計画期間は3年と短くなっていますので、短期的な目標と長期的な目標をうまく組み合わせて取り組んでいけたらと思います。またプランを指針として具体的な施策を行っていく場合には、都度の振り返りをしっかりとしていくべきではないかと感じました。

前川委員：23ページの「事業承継に向けた支援」については我々金融機関も協力して取り組んでいけたらと考えています。また22ページの「人材確保の支援」についても、企業の大きな課題になっているため、積極的に課題解消のため取り組んでいきたいと思っています。

前田委員：前提として、このプランは誰に対してのものになっているのでしょうか。市民でしょうか、事業者でしょうか。

委員長：こちらは市の産業振興の方向性やビジョンであり、それを実現するための定量的な目標が設定されています。定量的な目標を達成するために施策がありますが、その施策の対象者は幅広く、且つ対象者に訴求しているかどうかは施策を実施し、検証してから分かると思います。また、このプランはそれら施策の方針文書のようなものです。

事務局：プランは市としての産業振興の方向性であり、これに紐づいて補助金等の具体的な事業があります。対象者としては、市が施策を実施していくための方向性を示していますが、産業振興は行政だけでは行えない部分があるため、商工会議所や金融機関と連携して実施していくという内容も含めたものになっています。

伊津田委員：大切なのはプランの内容を実行に移すことにあり、策定することももちろん大事ですが、ここからプランを実現していくことが一番大事です。どのように実現していくかは、またこの推進委員会で検討していくのだと思います。

谷委員：19ページにある成果指標について、「市内での操業継続の意向」については上昇ではなく維持が良いのでしょうか。

事務局：目標なので本来は上昇を目指すべきであると考えますが、実際市内の事業所数はかなり減少しています。過去10年をさかのぼると、事業所数が一時期大幅に落ち込み、最近は横ばいまたは減少という状況です。そのため市としては、現状の事業所数を維持していきたいという考えです。単に維持を目指すという指標のみですと、プランを読まれた人には維持が良いのかと感じられるかもしれませんので、統計調査といったバックボーンになる資料があれば、成果指標を設定した理由がより分かりやすくなるかもしれません。

委員長：プランについては、各委員より指摘があった部分を適宜反映していただければと思います。

4 令和3年度の事業及び今後の取組について

事務局：（資料3、4をもとに説明）

5 その他

事務局：西村委員、前田委員、森本委員は、今回の会議で退任となります。

また、次年度から、市内事業者である委員を1名、公募委員の方を1名、新たに選任する予定です。

事務局：それでは、以上をもちまして委員会を閉会させていただきます。

ありがとうございました。